# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

10-201473

(43) Date of publication of application: 04.08.1998

(51)Int.Cl.

C12N 15/09 1/21 C12N C12N 9/06 // C12Q 1/26 (C12N 1/21 C12R 1:19 ) (C12N 9/06 C12R 1:19 )

(21)Application number: 09-

(71)Applicant: ASAHI CHEM IND

007101

CO LTD

(22)Date of filing:

20.01.1997 (72)Inventor: SHIMIZU AKIRA

SHIMIZU AKIKA

**KOGA SHINJI** 

# (54) FRUCTOSYL AMINE OXIDASE-PRODUCTIVE SUBSTANTIALLY PURE ORGANISM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a pure microorganism that efficiently produces fructosyl amine oxidase by transformation with a DNA having a base sequence that codes for the amino acid sequence of fructosyl amine oxidase having specific amino acid sequences.

SOLUTION: This fructosyl amine oxidase—productive microorganism is obtained by transforming a microorganism with a DNA having a base sequence that codes for an amino acid sequence of fructosyl amine oxidase having amino acid sequences 1 to 440 in the amino acid sequence of the

HE HELDE IT ALD AND HELDE HOLDE SALES OF ALL STATE OF OF OCCURA

A B SET THE LET ON AND HELDE HOLDE HELDE HOLDE SALE SALE

A CONTROL OF A COUNTY OF OCCUPANT OCCUPANT OF OCCUPANT OCCUP

formula. The transformed microorganism belongs to Escherichia coli, such as Escherichia coli DH1.pFOD7 (FERM P-15943), and the fructosyl amine oxidase is preferably produced by culturing this transformed

microorganism in a culture medium under aerobic condition, and collecting the fructosyl amine oxidase from the culture medium.

# LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

08.08.2003

[Date of sending the examiner's

decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application

converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

3775873

[Date of registration]

03.03.2006

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against

examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

#### (19)日本国特許庁(JP)

# (12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

# 特開平10-201473

(43)公開日 平成10年(1998)8月4日

識別記号		FΙ								
		T. T								
		C 1 2	2 N	15/00		Α				
				1/21						
				9/06		Z				
		C 1 2	2 Q	1/26						
	審査請求	未請求	請求	項の数10	OL	(全 15 頁)	最終頁に続く			
<b>特願平</b> 9-7101		(71)	出願人	. 0000000	)33					
				旭化成工業株式会社 大阪府大阪市北区堂島浜1丁目2番6号						
平成9年(1997)1月20日										
		(72) §	発明者	清水	昌					
				京都府	京都市	右京区常磐山	下町6番地の9			
		(72) §	発明者	古賀	晋二					
				静岡県	3万郡	大仁町三福632	番地の1 旭			
				化成工	業株式:	会社内				
		<b>特願平9-7101</b>	等查請求 未請求 特願平9-7101 (71) [ 平成9年(1997) 1月20日 (72) §	特願平9-7101 (71)出願人 平成 9 年(1997) 1 月20日 (72)発明者	9/06 C12Q 1/26 審査請求 未請求 請求項の数10 特願平9-7101 (71)出願人 0000000 旭化成 ・ 大阪府 (72)発明者 清水 に 京都府 (72)発明者 古賀 計 静岡県	9/06   C 1 2 Q 1/26   Repair   未請求 請求項の数10 OL   特願平9-7101   (71) 出願人 000000033   旭化成工業株	9/06   Z   C 1 2 Q 1/26			

# (54) 【発明の名称】 フルクトシルアミンオキシダーゼを生産する実質上純粋な微生物

# (57)【要約】

【課題】 フルクトシルアミンオキシダーゼを効率よく 生産する手段を得るものである。

【解決手段】 フルクトシルアミンオキシダーゼのアミノ酸配列をコードする塩基配列を有する遺伝子、フルクトシルアミンオキシダーゼ遺伝子によって形質転換した遺伝子組換え微生物、当該微生物を培養してなるフルクトシルアミンオキシダーゼの製造法。

【効果】 フルクトシルアミンオキシダーゼ生産菌株に由来する染色体DNAライブラリーからフルクトシルアミンオキシダーゼ遺伝子の全DNA配列を明確とした新規なフルクトシルアミンオキシダーゼ遺伝子を分離でき、該フルクトシルアミンオキシダーゼ遺伝子を導入した遺伝子組換え微生物を利用することにより、高効率なフルクトシルアミンオキシダーゼの生産を可能とした。

# 【特許請求の範囲】

【請求項1】 配列表1のアミノ酸配列の1から440 で表されるアミノ酸配列を有するフルクトシルアミンオ キシダーゼのアミノ酸配列をコードする塩基配列を有す るDNAによって形質転換されたものであることを特徴 とするフルクトシルアミンオキシダーゼを生産する実質 上純粋な微生物。

【請求項2】 形質転換された微生物が、エシェリヒア ・コリに属する微生物である請求項1記載の微生物。

【請求項3】 形質転換されたエシェリヒア・コリに属 10 する微生物が、プラスミド p F O D 7 によって形質転換 された微生物である請求項1記載の微生物。

【請求項4】 形質転換されたエシェリヒア・コリに属 する微生物が、エシェリヒア・コリDH1・pFOD7 (微工研寄託、FERM P-15943) である請求 項1記載の微生物。

【請求項5】 配列表1のアミノ酸配列の1から440 で表されるアミノ酸配列を有するフルクトシルアミンオ キシダーゼのアミノ酸配列をコードする塩基配列を有す ることを特徴とするフルクトシルアミンオキシダーゼを 20 年)、HPLC法(J.Clin.Chem.Cli 発現する実質上純粋なDNA。

【請求項6】 DNAが、配列表1の塩基配列の1から 1320で表される塩基配列を有する請求項5記載のD NA.

【請求項7】 配列表1のアミノ酸配列の1から440 で表されるアミノ酸配列を有するフルクトシルアミンオ キシダーゼをコードする塩基配列を有するDNAによっ て形質転換された微生物であるフルクトシルアミンオキ シダーゼを生産する実質上純粋な微生物を培地に培養 し、次いでその培養物からフルクトシルアミンオキシダ 30 いるために種々の分析機で自動化されている。しかし、 ーゼを採取することを特徴とするフルクトシルアミンオ キシダーゼの製造法。

【請求項8】 形質転換された微生物が、エシェリヒア 属に属するフルクトシルアミンオキシダーゼを生産する 実質上純粋な微生物である請求項7記載のフルクトシル アミンオキシダーゼの製造法。

【請求項9】 形質転換された微生物が、エシェリヒア ・コリDH1・pFOD7 (微工研寄託、FERM P -15943) である請求項7記載のフルクトシルアミ ンオキシダーゼの製造法。

【請求項10】 培養において28℃以下で培養する請 求項7記載のフルクトシルアミンオキシダーゼの製造 法。

# 【発明の詳細な説明】

# [0001]

【発明の属する技術分野】本発明はフルクトシルアミン オキシダーゼを発現する実質上純粋なDNA、フルクト シルアミンオキシダーゼを生産する実質上純粋な微生物 及びフルクトシルアミンオキシダーゼの製造法に関する ものである。

[0002]

【従来の技術】血液中のグルコースは遊離のアミノ基 (主にリジンのε-アミノ基)を持つ蛋白と結合し、シ ッフ塩基を形成してアルジミンとなる。この反応は可逆 であり、生じた反応物は不安定であるが、それに続く不 可逆性のアマドリ転移によって、安定したケトアミンと なる。このような糖化蛋白を総称してフルクトサミンと 呼ぶ。フルクトサミンの60から70%はグリケイテッ ドアルブミンであると言われている。アルブミンの半減 期が約2週間であることから、フルクトサミンは約2週 間前の血糖値を反映すると言われている。

【0003】糖尿病患者における血液中のグルコース濃 度は健常人と比較して高いことから、フルクトサミンの 濃度も高くなることが知られている。血糖値は食事の影 響を大きく受けることから、食事の影響を受けないフル クトサミンは、糖尿病患者の血糖コントロール指標とし て有用である。フルクトサミンの定量法としては、アフ ィニティークロマトグラフィー法(Daiabete s, 第29巻、1044-1047ページ、1980 n. Biochem. , 第19巻、81-87ページ、 1981年)、(FEBS Lett., 第71巻、3 56-360ページ、1976年) 等があるが、いずれ も操作が煩雑な上、精度に問題があった。

【0004】上記の方法に代わって、最近多く用いられ ているのがアルカリ溶液中でのフルクトサミンの還元能 を利用してNBT (ニトロブルーテトラゾリウム)を還 元し、ホルマザン生成物の吸光度(550nm)を測定 するものである。この方法は迅速であり、臨床検査に用 試料中の夾雑物質の影響を受けることから特異性が疑問 視されていた。そこで、簡便でかつ夾雑物質の影響を受 けないフルクトサミンを測定する方法が望まれていた。 【0005】フルクトサミンを含むアマドリ化合物の定 量法としてコリネバクテリウム(Corynebact erium)属由来のフルクトシルアミノ酸オキシダー ゼを用いた方法が報告されている(特開昭61-268 178号公報)。しかしこの方法はα-アミノ酸のアマ ドリ化合物に対しては作用するがεーアミノ酸に対して 40 は作用しない(特開平3-155780号公報)。フル クトサミンは、タンパク質中の ε-アミノ酸であるリジ ン残基に糖が結合したものである(Diabetolo gia、第26号、93-98ページ、1984年) と とから、この方法はフルクトサミンの定量には使用でき なかった。

【0006】フルクトサミンのようなε-アミノ酸のア マドリ化合物にも作用する酵素として、アスペルギウス (Aspergillus) 属由来のフルクトシルアミ ンオキシダーゼ(特開平3-155780号公報)、フ 50 サリウム (Fusarium) 属、アクレモニウム (A

cremonium) 属、およびデバリオマイセス(D ebaryomyces) 属由来のケトアミンオキシダ ーゼ (特開平5-192193号公報) が知られてい る。しかし、いずれも培養に誘導物質としてフルクトシ ルグリシンやフルクトシルバリンなどのような合成基質 を使用するにもかかわらず酵素生産能は非常に低い。加 えて、真菌類は液体培養を行うと菌体が培地の半分もの 体積になり、また細胞壁が非常に強固であることから、 微量の酵素を精製することは非常に困難である。さら に、血液中に存在するような低濃度のフルクトサミンを 10 測定するには多量の酵素が必要であり、本酵素を供給す る方法として現実的なものではあり得なかった。

【0007】このような状況下、フルクトシルアミンオ キシダーゼにおいてはε-アミノ酸に対する反応性や生 産菌株の酵素生産性が非常に低いことから、ε-アミノ 酸に対して反応性の高い酵素を効率よく生産し、容易に 抽出・精製できる微生物の開発が望まれていた。

#### [0008]

【発明が解決しようとする課題】本発明は、このような ノ酸に反応性の高いフルクトシルアミンオキシダーゼを 検索し、この酵素を効率よく生産する微生物を開発し、 さらにこの微生物を用いて該酵素を量産する方法を提供 することを目的としてなされたものである。

#### [0009]

【課題を解決するための手段】本発明者らは前記目的を 達成するために鋭意研究を重ね、自然界および公知の分 離株についてフルクトシルアミンオキシダーゼを産出す る株を探索した結果、特に真菌類に広く存在することが わかった。その中で特にフサリウム・オキシスポルム (Fusarium oxysporum) IFO-9 972のフルクトシルアミンオキシダーゼ生産能が高い ことがわかった。

【0010】そこで、本菌株から該酵素を精製し、該酵 素の部分的アミノ酸配列を決定した。そして、該酵素を 生産する微生物由来の染色体DNAライブラリーの中か ら、該酵素をコードする遺伝子DNAを決定した部分的 アミノ酸配列から設計・合成したDNAプローブを用い てスクリーニングし、得られたDNA断片から該酵素を コードしない領域(5'および3'ノンコーディング領 40 域並びにイントロン)を部位特異的変異法を用いて除去 することで原核生物において遺伝子発現が可能でかつ容 易に発現する構造に変換した後、この遺伝子を用いて発 現ベクターを構築し、例えばエシェリヒア・コリ(Es cherichia coli) に属する微生物に導入 して形質転換微生物を作出し、これを特に培地中で低温 にて培養することによって、該フルクトシルアミンオキ シダーゼを効率よく量産することを見い出し、この知見 に基づいて本発明を完成するに至った。

【0011】すなわち、本発明は、配列表1のアミノ酸 50 D-

配列の1から440で表されるアミノ酸配列を有するフ ルクトシルアミンオキシダーゼのアミノ酸配列をコード する塩基配列を有するDNAによって形質転換されたも のであることを特徴とするフルクトシルアミンオキシダ ーゼを生産する実質上純粋な微生物、配列表1のアミノ 酸配列の1から440で表されるアミノ酸配列を有する フルクトシルアミンオキシダーゼのアミノ酸配列をコー ドする塩基配列を有することを特徴とするフルクトシル アミンオキシダーゼを発現する実質上純粋なDNA、配 列表1のアミノ酸配列の1から440で表されるアミノ 酸配列を有するフルクトシルアミンオキシダーゼのアミ ノ酸配列をコードする塩基配列を有するDNAによって 形質転換されたフルクトシルアミンオキシダーゼを生産 する実質上純粋な微生物を培地に培養し、次いでその培 養物からフルクトシルアミンオキシダーゼを採取すると とを特徴とするフルクトシルアミンオキシダーゼの製造 法を提供するものである。

【0012】以下、本発明を詳細に説明する。本発明に おいて使用されるフルクトシルアミンオキシダーゼ生産 実情のもとで、フルクトサミンの定量に有用なε-アミ 20 菌は、フサリウム・オキシスポルムΙFO-9972株 であり、本菌の生産するフルクトシルアミンオキシダー ゼの性状は以下の通りである。

- ・フルクトシルアミンオキシダーゼの活性測定法
- ・反応液組成

50mMのトリスー塩酸緩衝液 (pH7.5)

- 0.03%の4-アミノアンチピリン
- 0.02%のフェノール
- 4. 5 u/mlのパーオキシダーゼ

 $1 \, \text{mMoZFL}$  (α-カルボベンズオキシーε-D-フ 30 ルクトシルーL-リジン)

上記の反応液1m1を小試験管に入れ、37℃で5分間 予備加温した後、適当に希釈した酵素液0.02mlを 添加して撹拌し、反応を開始する。正確に10分間反応 の後に、0.5%のSDSを2m1添加して反応を停止 し、波長500nmの吸光度を測定する(As)。また 盲検として酵素液のかわりに蒸留水0.02m1を用い で同一の操作を行って吸光度を測定する(Ab)。この 酵素使用の吸光度(As)と盲検の吸光度(Ab)の吸 光度差(As-Ab)より酵素活性を求める。別にあら かじめ過酸化水素の標準溶液を用いて吸光度と生成した 過酸化水素量との関係を調べておく。37℃、1分間に 1 μ Mの過酸化水素を生成する酵素量を1 Uと定義し、 計算式は下記の通りである。

酵素活性  $(U/m1) = (As-Ab) \times 1.16 \times$ 酵 素の希釈率

#### (1) 基質特異性

ZFL	100%
D – フルクトシル – L – アラニン	104%
ε-D-フルクトシル-L-リジン	8 1 %
D-フルカトシル-L-バリン	1 0%

#### (2)酵素作用

下記に示すように、少なくとも $\alpha$ -アミノ酸、 $\epsilon$ -アミ ノ酸のアマドリ化合物を分解して、グルコソンと過酸化 水素および対応する $\alpha$ -アミノ酸、 $\epsilon$ -アミノ酸を生成\* \* する反応を触媒する。

[0013]

【化1】

 $\alpha$ -アミノ酸 ( $\epsilon$ -アミノ酸) のアマドリ化合物 + O2 + H2O

グルコソン + H2O2 + α-アミノ酸(ε-アミノ酸)

## 【0014】(3)分子量

たカラムゲル濾過法で、0.2MのNaCl含有0.1 Mのリン酸緩衝液(pH7.0)を溶出液として測定し た結果、48,000±2,000、SDS-PAGE では $47,000\pm2,000$ であった。

## (4) 等電点

キャリアアンフォライトを用いる焦点電気泳動法によっ て4℃、700∨の定電圧で40時間通電した後、分画 し、各画分の酵素活性を測定した結果、p H 4.3 ± 0.2であった。

#### (5) Km値

50mMのトリス塩酸緩衝液(pH7.5)

- 0.03%の4-アミノアンチピリン
- 0.02%のフェノール
- 4. 5 u/mlのパーオキシダーゼ

を含む反応液中で合成基質ZFLの濃度を変化させて、 ZFLに対するKm値を測定した結果、0.194mM の値を示した。

#### (6)至適pH

前記の酵素活性測定法に従い、反応液中の50mMのト リス-塩酸緩衝液 (pH7.5) に代えて100mMの 30 【0015】 酢酸緩衝液(pH4.4-5.4)、リン酸緩衝液(p

H5.6-7.9)、トリスー塩酸緩衝液(pH7.3 本酵素の分子量はSephadex・G-100を用い 10 -8.5)、およびグリシンー水酸化ナトリウム緩衝液 (pH8.0-10.3)の各緩衝液を用いて測定し た。この結果、pH7.5で最大の活性を示した。 (7) p H安定性

> 本酵素0.5Uを含有する0.5Mの至適pHを測定す るときに用いた各種緩衝液 0.5 m l を 40℃、10分 間処理した後、その残存活性を後記の活性測定法に従っ て測定した。この結果、pH7.0-9.0の範囲で8 0%以上の活性を保持していた。

#### (8)熱安定性

20 本酵素 0.5 Uを 0.2 Mのトリスー塩酸緩衝液 (pH 7.5)で調製し、10分間加熱処理後、その残存活性 を活性測定法に従って測定した。この結果、40℃まで は残存活性として95%以上を保持した。

#### (9)至適温度

40 mMのトリスー塩酸緩衝液(pH7.5)を用い、 活性測定法に従い、各温度で10分間反応後、0.5% のラウリル硫酸ナトリウム(以下SDSと略称する)溶 液2m1で反応を停止し、波長500mmで吸光度を測 定した。この結果、50℃で最大の活性を示した。

【表1】

	フザリウム・ オキシスポラム IFO 9972	コリネバクテリウム	アスベルギルス sp.	フザリウム・ オキシスポラム C-184	フザリウム・ オキシスポラム IEO 5880	
分子量 (ゲル渡過)	48,000	88,000	83,000	45,000	106,000	7
分子量 (SDS-PAGE)	47,000	44,000	43,000	50,000	51,000	
特異性 (U/mg) フルクトシルリジン	30	N.D.	11.28	48.9	18.5	
フルクトシルバリン	m	7.09	59.8	N.D.	6.83	
ミハエリス定数	0.194mM (ZFL)	0.74mM (FG)	2.2mM (FG)	0.22mM (FL)	0.37mM (FZL)	
至道pH	7.7	8.3	7.7	8.0	8.5	
至適温度	20	40	40	45	30~35	
熱安定性	40	35	37	20~55	20~50	
pH安定性	6~1	8~10	7.5~11	4~12	4~13	
阻害剤	MnClz, NiClz, ZnSO4 CdClz, HgClz, PCMB		0 11	CuCl2, ZnSO4, AgNO3 HgCl2, PCMB	ZnSO4, AgNO3 HgCl2, PCMB	
<b>等</b> 種点	4.3	4.6	6.8	4.8	6.8	8

【0016】以上の本酵素の理化学的性質と公知の酵素 の性質を(表1)に示し比較した。その結果、分子量に おいてはコリネバクテリウムsp. 由来酵素は88,0 00、アスペルギルスsp. 由来酵素は83,000、 フザリウム・オキシスポルムIF〇05880由来酵素 は106,000であるのに対し、本発明の酵素の分子 量は48,000であり明らかに違う分子量であった。

40℃、アスペルギルスsp、由来酵素は40℃、フザ リウム・オキシスポルムS-1F4由来酵素は45  $\mathbb{C}$ 、 フザリウム・オキシスポルムIF〇05880由来酵素 は33℃であり、本発明の酵素の至適温度は50℃であ り、明らかに異なっていた。阻害剤においては本発明の 酵素がマンガンイオンやニッケルイオンによって阻害さ れるの対してフザリウム・オキシスポルムS-1F4由 至適温度においてコリネバクテリウム s p. 由来酵素は 50 来酵素やフザリウム・オキシスポルム I F O O 5 8 8 0

由来酵素はマンガンイオンとニッケルイオン存在下に 1 00%残存活性を示す阻害を受けない性質を有するもの であった。基質特異性においては本発明酵素はフルクト シルリジンとフルクトシルバリンに作用し、フルクトシ ルグリシンには作用しなかった。コリネバクテリウム s p. 由来酵素はフルクトシルリジンに作用しないことか ら、明らかに本発明酵素とは異なるもので、また血中の フルクトサミン(リジン残基のε位のアミノ基が糖化さ れた蛋白)の測定には使用できない。フザリウム・オキ シスポルムS-1F4由来酵素はフルクトシルバリンに 10 作用しないことから明らかに本発明酵素とは異なるもの であり、また血中のヘモグロビンA<sub>1c</sub>(ヘモグロビンA 1cは血糖コントロールマーカーで、N末のバリン残基が 糖化されている。)の測定には使用できない。以上の諸 性質における差異が認められ、本酵素は新規な性質のも のと認められる。

【0017】また、上記に示した本発明の新規な性質を 有するフルクトシルアミンオキシダーゼについて精製を 行い、得られた電気泳動的に均一なフルクトシルアミン オキシダーゼを用い、N末端側アミノ酸配列、シアノゲ 20 ンブロミドなどを用いて化学的に切断した各ペプチド断 片、およびリシルエンドペプチダーゼやアスパラギニル エンドペプチダーゼなどプロテアーゼを用いて消化した 各ペプチド断片についてアミノ酸配列を決定し、フルク トシルアミンオキシダーゼの部分的なアミノ酸配列を決 定する。

【0018】次に、フルクトシルアミンオキシダーゼを 発現する遺伝子DNAをクローニングし、遺伝子工学的 に該酵素を発現する形質転換微生物を作出する訳である が、用いられるフルクトシルアミンオキシダーゼを発現 30 する遺伝子DNAは、例えば該酵素を生産する微生物由 来の染色体DNAまたは c DNA ライブラリーの中か ら、スクリーニングすることによって得ることができ る。

【0019】本発明においては、前記のフルクトシルア ミンオキシダーゼを生産する微生物として、フサリウム ・オキシスポルムIFO-9972が好ましく用いられ る。このフサリウム・オキシスポルムIFO-9972 から該酵素を発現する遺伝子DNAをスクリーニングす る方法について説明する。まず、本菌の遺伝子ライブラ リーを作製するにあたり、染色体DNAライブラリーを 作製する場合、まず、該微生物の染色体DNAを通常用 いられている方法によって抽出した後、適当な制限酵素 で切断して、クローニング用ベクターに連結し、次いで この組換えベクターを宿主微生物に導入して、10 0~~ 10 個の形質転換宿主微生物のコロニーからなる染色 体DNAライブラリーを作製する。

【0020】また、cDNAライブラリーを作製する場 合は、全RNAを通常用いられている方法に従って調製 した後、例えばオリゴdTカラムを用いてmRNAを精 50 UC18、pUC19、pUC118、pUC119、

製しても良いし、市販のキットを用いて直接mRNAを 調製しても良い。調製したmRNAに適当な制限酵素部 位を有するリンカーやアダプターを付加した後適当なク ローニング用ベクターに挿入し、上記と同様に宿主微生 物に導入してcDNAライブラリーを作製する。この際 用いられる宿主微生物としては、組換えDNAが安定で かつ自律的に増殖可能であるものであれば特に制限され ず、通常の遺伝子組換えに用いられているもの、例えば エシェリヒア属、バチルス属に属する微生物などが好ま しく使用される。

【0021】宿主微生物に組換えDNAを導入する方法 としては、例えば宿主微生物がエシェリヒア属に属する 微生物の場合には、カルシウムイオンの存在下に組換え DNAの導入を行ってもよいし、コンピテントセル法を 用いてもよく、またバチルス属に属する微生物の場合に は、コンピテントセル法またはプロトブラスト法などを 用いることができるし、エレクトロポレーション法ある いはマイクロインジェクション法を用いてもよい。宿主 微生物への所望組換えDNA導入の有無の選択について は、組換えDNAを構成するベクターの薬剤耐性マーカ ーや栄養要求性マーカーに基づく選択培地で、該宿主微 生物を培養し、生育する宿主微生物を選択すればよい。 【0022】一方、フルクトシルアミンオキシダーゼ精 製標品の部分的アミノ酸配列に基づいて種々のオリゴヌ クレオチドを合成した後、例えばアイソトープで標識し て標識オリゴヌクレオチドプローブを作製する。次い で、これらの標識オリゴヌクレオチドプローブを用い、 従来慣用されている方法に従って、前記の染色体DNA または c D N A ライブラリーの中から、フルクトシルア ミンオキシダーゼ遺伝子を含むものをスクリーニングす る。

【0023】次に、この目的の遺伝子DNAを含む形質 転換された宿主微生物から、例えばマニアティスらの方 法(Molecular Cloning Secon dEdition., Cold Spring Har bor Laboratory、1989年) などに従 って、フルクトシルアミンオキシダーゼ遺伝子DNAを 含む組換えベクターを調製することができる。

【0024】次に、以上のようにして得たフルクトシル 40 アミンオキシダーゼ遺伝子を発現用ベクターに組み込ん で、発現ベクターを構築する。この発現用ベクターとし ては、宿主微生物で自律的に増殖し得るファージDNA またはプラスミドDNAから遺伝子組換え用として構築 されたものが適している。前者のファージベクターとし ては、例えばエシェリヒア・コリを宿主微生物とする場 合には、入gt・入C、入gt・入Bなどが用いられ る。また、プラスミドベクターとしては、エシェリヒア ・コリを宿主微生物とする場合は、例えばpBR32 2、pBR325、pACYC184、pUC12、p

pTV119N, pBluescriptSK+, pT rc99Aなどが用いられる。

【0025】さらに、バチルス属を宿主微生物とする場 合は、例えばpHY300PLKなどを用いればよく、 サッカロミセス属を宿主微生物とする場合は、例えばp YAC5などを用いればよい。また宿主微生物が原核生 物である場合、フルクトシルアミンオキシダーゼ遺伝子 を組み込んだ際に効率よく働くプロモーターが上流に存 在するような構造の発現用ベクターが適しており、エシ ェリヒア・コリを宿主微生物とする場合には、p UC 1 2, pUC18, pUC19, pUC118, pUC1 19, pTV119N, pBluescriptSK +、pTrc99Aなどがとれに合致する。さらに、バ チルス属を宿主微生物とする場合は、pHY300PL Kなどが合致する。

【0026】とれらのベクターに、該フルクトシルアミ ンオキシダーゼ遺伝子DNAを組み込む方法については 特に制限はなく、従来慣用されている方法を用いること ができる。しかし、該酵素生産菌であるフサリウム・オ キシスポルムIFO-9972は真核生物であることか 20 ム塩などが、無機成分としては、例えばナトリウム、カ ら、該酵素遺伝子内にイントロンを保持している可能性 がある。イントロンが存在している場合、エシェリヒア ・コリなどの原核生物を宿主として活性発現させるため にはこのイントロンを除去しなければならない。この場 合は、部位特異的変異法を応用して、イントロンを除去 した後に結合させたいエクソン(タンパクをコードして いる遺伝子部分)両末端と同じ配列を有する合成DNA を用いてイントロンを除去すればよい。また、宿主微生 物での遺伝子の発現効率を上昇させるために、部位特異 変異法を用いて低頻度遺伝子コドンを高頻度コドンに変 30 換する作業が有効である。例えば宿主微生物がエシェリ ヒア・コリであれば、アルギニンをコードするエシェリ ヒア・コリでの低頻度遺伝子コドンAGGを、同じくア ルギニンをコードする高頻度コドンであるCGGなどに 変換する操作が一般的に行われる。また、フルクトシル アミンオキシダーゼ遺伝子を発現用ベクターに組み込む に先だって、遺伝子の上流部と下流部に部位特異変異法 やPCR法を用いて、適当な制限酵素認識部位を作成し ておくことも一般的な手法である。そして、適当な制限 酵素を用いて、前記のフルクトシルアミンオキシダーゼ 40 等の安定化剤を0.1~5%添加して凍結乾燥してもよ 遺伝子DNAを含む組換えベクター及び発現用ベクター を処理し、それぞれフルクトシルアミンオキシダーゼ遺 伝子を含む DNA断片及びベクター断片を得た後、それ ぞれの接着末端をアニーリング後、適当なDNAリガー ゼを用いて結合させることによって、発現ベクターが得 られる。

【0027】後述の実施例における発現ベクターは、前 記のフルクトシルアミンオキシダーゼ遺伝子DNAを含 む組換えプラスミドとして分離したpFOD1とプラス ミドベクターpTV119Nから得られ、pFOD7と 50 基配列の1から1320で表される塩基配列であること

命名されたものであり、その構成の模式図は図1に示す とおりである。とのようにして、構築された発現ベクタ ーをエシェリヒア・コリに属する微生物に導入し、該宿 主微生物を形質転換させればフルクトシルアミンオキシ ダーゼを生産する実質上純粋な微生物が得られる。発現 ベクターの導入及び選択方法については前述した方法を 用いて行う。

12

【0028】本発明においては、前記組換えプラスミド pFOD7によって形質転換されたエシェリヒア・コリ 10 に属する微生物は、エシェリヒア・コリDH1・pFO D7 (微工研寄託、FERM P-15943) と命名 される。このようにして得られた形質転換微生物の培養 は、該微生物の生育に必要な炭素源や窒素源などの栄養 源や無機成分などを含む培地中において行うことができ る。

【0029】該炭素源としては、例えばグルコース、デ ンプン、ショ糖、モラッセス、デキストリンなどが、窒 素源としては、例えばペプトン、肉エキス、カゼイン加 水分解物、コーンスチープリカー、硝酸塩、アンモニウ リウム、カルシウム、マグネシウム、コバルト、亜鉛、 マンガン、鉄などの陽イオンや塩素、硫酸、リン酸など の陰イオンを含む塩が挙げられる。

【0030】培養方法については特に制限はなく公知の 方法、例えば通気撹拌培養、振盪培養、回転培養、静置 培養などの方法によって行うことができるが、本発明に 関しては、数々の検討を行った結果、エシェリヒア・コ リの至適生育温度である37℃よりも低い28℃以下好 ましくは25℃で、12時間から60時間程度培養する 方法が好ましく用いられる。

【0031】とのようにして培養を行ったのち、遠心分 離処理などの手段によって菌体を集め、次いで酵素処 理、自己消化、フレンチプレス、超音波処理などによっ て細胞を破壊して目的とする酵素を含有する抽出液を得 る。この抽出液から、該酵素を分離、精製するには、例 えば、塩析、脱塩、イオン交換樹脂による吸脱着処理な どを行ったのち、さらに吸着クロマトグラフィー、ゲル 濾過、電気泳動法などによって精製すればよけ、この精 製酵素について適宜、ショ糖、グリセロール、アミノ酸

【0032】との精製標品について、フルクトシルアミ ンオキシダーゼの酵素活性及び物理化学的性質を調べる ことによって、該形質転換微生物がフルクトシルアミン オキシダーゼの産生能を有することが確認された。した がって、本発明において用いたフルクトシルアミンオキ シダーゼを発現する遺伝子DNAは、配列表1のアミノ 酸配列の1から440で表されるアミノ酸配列をコード する塩基配列を有し、かつその塩基配列が配列表1の塩 が明らかである。

【0033】 このようにして得られたフルクトシルアミンオキシダーゼは、例えば血清中のフルクトサミン定量などの臨床用酵素として有用である。なお、本発明明細書に記載の塩基配列の記号及びアミノ酸配列の記号は、当該分野における慣用略号に基づくもので、それらの例を以下に列記する。また、すべてのアミノ酸はL体を示すものとする。

13

【0034】DNA:デオキシリボ核酸

A:アデニン

T: チミン

G: グアニン

C:シトシン

N:アデニン、チミン、グアニンまたはシトシン

R: アデニンまたはグアニン

Y:チミンまたはシトシン

Ala: アラニン

Arg:アルギニン

Asn:アスパラギン

Asp:アスパラギン酸

Cys:システイン

Gln: グルタミン

Glu:グルタミン酸

His:ヒスチジン

Ile: イソロイシン

Leu:ロイシン

Lys:リジン

Met:メチオニン

Phe:フェニルアラニン

Pro:プロリン

Ser:セリン

Thr:スレオニン

Trp:トリプトファン

Tyr:チロシン

Val:バリン

[0035]

【発明実施の形態】以下、実施例に基づいて本発明をより詳細に説明するが、本発明はこれらの実施例に限定されるものではない。なお、実施例中、常法に従い、と記述した操作は、例えばマニアティスらの方法(T. maniatis., et al., Molecular Cloning Second Edition., Cold Spring Harbor Laboratory、1989年)や、市販の各種酵素、キット類に添付された手順に従えば実施できるものである。また、実験に使用した組換えDNA実験酵素試薬(制限酵素など)、プラスミドDNA、キット類は特に指摘しない限り宝酒造株式会社より購入したものである。

[0036]

【実施例1】

<染色体DNAの分離>フサリウム・オキシスボルムIFO-9972菌株を2%のグルコース(和光純薬社製)、2%の酵母エキス(極東製薬工業社製)から成り、pH5.5に調整した培地100m1にて28℃で3日間振盪培養した後、この培養液を高速冷却遠心機(トミーCX-250型)を用い、6500rpm(7660G)で10分間遠心分離処理して、菌体を集菌した。

【0037】次いで、この菌体を50mMの酢酸緩衝液 (pH5.5)、100mMのエチレンジアミン4酢酸 (以下EDTAと略称する) (pH8.0)及び15% のシュクロースからなる溶液20m1中に懸濁し、最終 濃度が2mg/m1となるようにノボザイム (ノボノル ディスク社製)を加え、25℃で30分間処理して菌株の細胞壁を破壊した。

【0038】次に、これに10の%のSDS(シグマ社製)水溶液1m1を加えて、37℃で20分間処理した後、これに等量のフェノール:クロロホルム=1:1混合液を加え、10000rpm(12080G)で10分間遠心分離処理して水相を回収した。この水相に2倍量のエタノールを静かに重層し、ガラス棒でゆっくり撹拌しながら、DNAをガラス棒にまきつかせて分離した後、10mMのトリスー塩酸(pH8.0)及び1mMのEDTAからなる溶液20m1で溶解し、次いでこれに等量のフェノール:クロロホルム=1:1混合液を加え、前記と同様に処理して水相を分取した。

【0039】次に、この水相に2倍量のエタノールを加えて前記の方法でもう一度DNAを分離した後、10mMのトリス-塩酸(pH8.0)及び1mMのEDTA からなる溶液2m1に溶解した。

[0040]

【実施例2】

<フサリウム・オキシスポルムIFO-9972遺伝子ライブラリーの作製>実施例1で得られたフサリウム・オキシスポルムIFO-9972染色体5μgを30単位の制限酵素BglIIを用い、常法に従って37℃で2時間切断処理した。また、5μgのプラスミドベクターpUC119を30単位の制限酵素BamHIを用い、常法に従って37℃で2時間切断処理した。さらに40 5'末端を脱リン酸化するために、反応液に1単位のアルカリ性ホスファターゼを加えて65℃で2時間処理した。

【0041】次に、前記のようにして得られた2種のDNA溶液を混合し、この混合液に等量のフェノール:クロロホルム=1:1混合液を加えて処理した後、遠心分離処理によって水相を分取した。次いで、この水相に1/10量の3Mの酢酸ナトリウム溶液を加え、さらに2倍量のエタノールを加えて遠心分離処理することによってDNAを沈澱させた後、減圧乾燥した。

50 【0042】CのDNAを100単位のT4DNAライ

ゲースを用い、常法に従って16°Cで16時間ライゲー ションを行った。次に、これを常法に従いコンピテント 細胞としたエシェリヒア・コリDH1 (ATCC338 49) [F-, recAl, endAl, gyrA9 6, th i - 1, h s dR 17 (rk - mk + ), S upE44, relAl, λ-] (T. maniati s., et al. Molecular Cloni ng:Cold Spring Harbor, 504 -506ページ、1982年) にトランスフォーメーシ ョンし、これをアンピシリン $50\mu$ g/m1含有3.7 10 1%のサケ精子DNA(ベーリンガー・マンハイム社 %のBHI寒天培地 (DIFCO社製) にて、37℃で 一昼夜培養し、約8000株の形質転換微生物を得て、 フサリウム・オキシスポルムIFO-9972遺伝子ラ イブラリーとした。

15

# [0043]

# 【実施例3】

<放射性オリゴヌクレオチドプローブの作製>フルクト シルアミンオキシダーゼ精製標品のリシルエンドペプチ ダーゼ処理断片、及びアスパラギニルエンドペプチダー ゼ処理断片のアミノ酸配列を調べたところ、配列表2か ら7のアミノ酸配列で表される6領域のアミノ酸配列が 決定された。

【0044】この情報をもとに遺伝子の5、末端側から 塩基配列を予想した。この予想された塩基配列には種々 の組合せが考えられるので、組合せの数が少ない部分の オリゴヌクレオチドを設計した。すなわち、配列表2の アミノ酸配列の59番目のPheから65番目のAsp をコードする20塩基のDNA配列を予想し、64通り の全ての塩基配列を有するDNAが混在するオリゴヌク レオチドFOD1を設計し、外部機関(BEX社)に合 30 成依頼して作成した。FOD1のDNA配列を配列表8 に示した。

【0045】とのようにして得られたオリゴヌクレオチ ド50ngを370キロベクレルの[γ-32P] ATP (アマシャムジャパン社製)の存在下、8.5単位のT 4ポリヌクレオチドキナーゼを用い、常法に従って37 ℃で30分間反応させて、放射性同位元素<sup>11</sup>Pを取り込 ませ、放射性オリゴヌクレオチドプローブを作製した。

# [0046]

# 【実施例4】

<フルクトシルアミンオキシダーゼ遺伝子含有DNAの</p> スクリーニング>実施例2で得たフサリウム・オキシス ポルムIFO-9972遺伝子ライブラリー、すなわち 平板寒天培地上のアンピシリン耐性コロニーの上に、ナ イロンメンブレンフィルター(アマシャムジャパン社 製、ハイボンド-N+)を重ね、フィルター上に該コロ ニー菌体の一部を移行させた後、このフィルターをアル カリ変性溶液(1.5MのNaC1、0.5NのNaO H) 中に5分間浸し、さらに中和溶液(0.5Mのトリ スー塩酸(p H 7. 0)、3 MのNa C 1)に5 分間浸 50 3 で決定したフルクトシルアミンオキシダーゼの 6 種の

漬後、乾燥させた。

【0047】次に、とのフィルターを80℃で2時間加 熱し、菌体中にあったプラスミドDNAをフィルターに 固定した。さらに、このフィルターをプレハイブリダイ ゼーション溶液(1.8MのNaC1、0.18Mのク エン酸ナトリウム、0.05%の二リン酸ナトリウム、 0. 1%のSDS、0. 1%のフィコール、0. 1%の ボリビニルピロリドン、0.1%のウシ胎児血清アルブ ミン(以下BSAと略称する)(シグマ社製)、0,0 製)) に浸し、37℃で一昼夜プレハイブリダイゼーシ ョンを行った。

【0048】その後、フィルターをハイブリダイゼーシ ョン溶液(1.8MのNaC1、0.18Mのクエン酸 ナトリウム、0.05%の二リン酸ナトリウム、0.1 %のSDS、0.1%のフィコール、0.1%のポリビ ニルピロリドン、0.1%のBSA、0.002%のエ シェリヒア・コリ由来トランスファーRNA(ベーリン ガー・マンハイム社製)) に浸した後、実施例3で得ら 20 れた放射性オリゴヌクレオチドプローブを加え、37℃ で24時間ハイブリダイゼーションを行った。

【0049】ハイブリダイゼーション後、洗浄液(1. 8MのNaC1、0.18Mのクエン酸ナトリウム、 0.05%のニリン酸ナトリウム)でフィルターを3回 洗浄した後、42℃の洗浄液に10分間浸し、余分なプ ローブを洗い落とした。ついで、フィルターを風乾後、 X線フィルム(富士写真フィルム社製、NewRXO-H) に重ね、遮光下-80°Cで24時間オートラジオグ ラフィーを行った。

【0050】その後、フィルムを現像したところ、ポジ ティブシグナルを示すコロニーを確認した。該コロニー をフルクトシルアミンオキシダーゼをコードするDNA を含む形質転換体エシェリヒア・コリDH1・pFOD 1と命名した。

#### [0051]

#### 【実施例5】

<組み換えプラスミドの抽出>上記実施例4で取得した エシェリヒア・コリDH1・pFOD1を、3.7%の BHI培地にて37℃で一昼夜培養した後、常法に従っ 40 てフルクトシルアミンオキシダーゼをコードするDNA を含む組み換えプラスミド p F O D 1 を抽出した。該プ ラスミド中のフサリウム・オキシスポルムIFO-99 72染色体由来の部位のDNA配列をジデオキシ法(S cience、第214巻、1205-1210ペー ジ、1981年) により決定し、フルクトシルアミンオ キシダーゼをコードする全DNAが含まれていることを 確認すると共に、その全塩基配列を決定した。

【0052】また、今回解析したフルクトシルアミンオ キシダーゼ遺伝子がコードするアミノ酸配列は、実施例

部分アミノ酸配列とも完全に一致した。さらに配列表 1 のDNA配列の78番目のTと79番目のCの間に、4 8 b p のイントロンが存在することが判明した。

17

[0053]

#### 【実施例6】

<エシェリヒア・コリ宿主フルクトシルアミンオキシダ ーゼ発現用プラスミドの作製>フルクトシルアミンオキ シダーゼの遺伝子中のイントロンをクンケルの部位特異 変異法(Proc. Natl. Acad. Sci. U. S. A. 第82巻、488ページ、1985年) により 除去するために、DNA変異用オリゴヌクレオチドプラ イマーFOD2を設計し、外部機関(BEX社)に合成 依頼して作成した。FOD2のDNA配列を配列表9に 示した。また、実施例5で得られたプラスミドpFOD 1を部位特異変異用実験キットMutan-K(宝酒造 社製) に添付されたエシェリヒア・コリCJ236株に 常法に従って導入し、添付のマニュアルに従って1本鎖 DNA状のpFOD1を調製した。この2μgの一本鎖 DNA状のpFOD1を鋳型DNAとし、1μgのFO D2を変異用プライマーとして、Mutan-Kを用 い、添付のマニュアルに従って部位特異変異を行い、イ ントロンを除いたDNA鎖を含有するプラスミドを合成 した。

【0054】このプラスミドをMutan-Kに添付の エシェリヒア・コリBMH71-18mu t S株に常法 に従って導入し、組換え菌体数コロニーから組換えプラ スミドを抽出し、10単位の制限酵素Sallで、添付 のマニュアルに従って37℃で2時間切断処理し、0. 7%アガロースゲル電気泳動で分析し、新たにSall 部位が導入されているプラスミドを確認、選択した。

【0055】との組換えプラスミドを再びエシェリヒア ・コリDH1株に形質転換し、組換えプラスミドを抽出 し、Sa1I部位が導入されていることを確認した。以 上により得たプラスミドをpFOD2と命名した。次に フルクトシルアミンオキシダーゼ構造遺伝子の上流と下 流に制限酵素認識部位をクンケルの部位特異変異法によ り導入するために、オリゴヌクレオチドFOD3とFO D4を設計し、それぞれ外部機関(BEX社)に合成依 頼して作成した。FOD3のDNA配列を配列表10 に、FOD4のDNA配列を配列表11に示した。ま た、プラスミドpFOD2を部位特異変異用実験キット Mutan-Kに添付されたエシェリヒア・コリCJ2 36株に常法に従って導入し、添付のマニュアルに従っ  $\tau$ 一本鎖DNA状のpFOD2を調製した。 $CO2\mu g$ の一本鎖DNA状のpFOD2を鋳型DNAとし、1 μ gのFOD3と1μgのFOD4を変異用プライマーと して、Mutan-Kを用い、添付のマニュアルに従っ て部位特異変異を行い、NcolとHindlllの認 識部位が追加されたDNA鎖を含有するプラスミドを合 成した。

【0056】とのプラスミドをMutan-Kに添付の エシェリヒア・コリBMH71-18mutS株に常法 に従って導入し、組換え菌体数コロニーから組換えプラ スミドを抽出し、10単位の制限酵素NcolとHin d I I I で、添付のマニュアルに従って37℃で2時間 切断処理し、0.7%アガロースゲル電気泳動で分析 し、新たにNcoIとHindIIIの認識部位が導入 されているプラスミドを確認、選択した。以上により得 たプラスミドをpFOD3と命名した。

【0057】さらに5μgのpFOD3を用い、制限酵 素Ncol及びHindIIIそれぞれ10単位で添付 のマニュアルに従って37℃で2時間切断処理し、0. 7%アガロースゲル電気泳動で約1.4kbのFOD遺 伝子を含むDNA断片を分離回収した。一方、5µgの エシェリヒア・コリ宿主プラスミドベクターpTV11 9Nを前記と同様に切断し、50mMのトリスー塩酸 (pH8.0) 存在下に、1単位のアルカリ性フォスフ ァターゼを加え、65°Cで2時間処理した。

【0058】次いで、前記のDNA溶液を混合し、実施 20 例2と同様にライゲーション、トランスフォーメーショ ンを行い、50 µg/m1のアンピシリンを含有する 7%のBHI寒天培地にまき、25℃で一昼夜培養 した。とのようにして、プラスミドベクターpTV11 9NのNcoI及びHindIII部位にフルクトシル アミンオキシダーゼ遺伝子を含む約1.4kbのDNA 断片が挿入されたプラスミドpFOD7を保持する形質 転換微生物を取得し、実施例3の方法で組換えプラスミ ドpFOD7を得た。

[0059]

## 【実施例7】

40

<エシェリヒア・コリ内でのフルクトシルアミンオキシ ダーゼの活性発現>実施例6で作製したプラスミドpF OD7を保持する形質転換微生物をアンピシリン50 μ g/ml及び1mMのIPTG(イソプロピルーβ-D - チオガラクトピラノシド)を含有する3.7%のBH Ⅰ培地にて37℃で一昼夜培養した後、培養液を150 00rpmで1分間遠心分離処理して沈澱を回収した。 この沈澱に、該培養液と同量の10mMのトリスー塩酸 (pH8.0)を加え、超音波破砕を行った。

【0060】この破砕液を適宜希釈した後、20μ1と り、前記に示した酵素活性測定法にてフルクトシルアミ ンオキシダーゼ活性を定量した。なお、比較のためにp TV119Nのみをトランスフォーメーションしたエシ ェリヒア・コリDH1の破砕液についても前記と同様の 処理を行い、フルクトシルアミンオキシダーゼ活性を測 定した。その結果、プラスミドpFOD7を保持した形 質転換微生物での活性はO.O8U/mlであったが、 pTV119Nを持つものの活性は検出できなかった。 これより、フルクトシルアミンオキシダーゼ活性をもつ 50 形質転換体が得られていることが確認された。この形質

20

転換体をエシェリヒア・コリDH1・pFOD7(Es cherichia coli・DH1・pFOD7) (微工研寄託、FERM P-15943)と命名し た。

19

【0061】このようにして得られたフルクトシルアミンオキシダーゼを単離・精製し、発現蛋白の理化学的性質を確認し、フサリウム・オキシスポルムIFO-9972のフルクトシルアミンオキシダーゼと同一であることを確認した。

#### [0062]

【発明の効果】本発明によるとフサリウム・オキシスポルムIFO-9972由来の染色体DNAライブラリーから、フルクトシルアミンオキシダーゼを発現する遺伝子DNAをスクリーニングし、これを用いて構築された発現ベクターを例えばエシェリヒア・コリに属する微生物に導入することによって、得られた形質転換微生物は効率よくフルクトシルアミンオキシダーゼを生産することができる。

\*【0063】また、本発明によって、初めてフルクトシルアミンオキシダーゼの全アミノ酸配列及びこのアミノ酸をコードする遺伝子DNAの塩基配列が決定できたので、該酵素の基質及び補酵素特異性の変換や耐熱性の向上などのプロテインエンジニアリングが可能となった。 【0064】

#### 【配列表】

配列番号:1

配列の長さ:1320

10 鎖の数:二本鎖

トポロジー:直鎖状

配列の種類:genomic DNA

起源

生物名:フサリウム・オキシスポルム

株名:IFO-9972

配列の名称: フルクトシルアミンオキシダーゼ遺伝子

配列の特徴

\* 1-1320 P CDS

#### 配列

CCC TCA ACT CTC ACC AAA CAG TCC CAA ATT CTC ATC GTT GGT GGC GGA 48 Ala Ser Thr Leu Thr Lys Gln Ser Gln Ile Leu Ile Val Gly Gly 5 10 ACT TOG GGA TGC TCA ACT GCC CTC CAT CTC GCC CGT CGG GGT TAC ACC 96 Thr Trp Gly Cys Ser Thr Ala Leu His Leu Ala Arg Arg Gly Tyr Thr 20 25 AAC GTC ACT GTT CTC GAT GTC AAT CGC ATC CCG TCA CCG ATA TCA GCC 144 Asn Val Thr Val Leu Asp Val Asn Arg Ile Pro Ser Pro Ile Ser Ala 40 CGG CAT GAT GTA AAC AAA CTT GCT GGC CGA CTG TCG ACT GCC GAT AGC 192 Gly His Asp Val Asn Lys Leu Ala Gly Arg Leu Ser Thr Ala Asp Ser 50 55 AMA GGT GAT GAT GAA GAC TCA ATC TGG AAA GCA CTT AGC TAC GCC GCA 240 Lys Gly Asp Asp Glu Asp Ser Ile Trp Lys Ala Leu Ser Tyr Ala Ala 65 70 75 GCT CAA GGA TGG CTC CAC GAC CCT GTC TTC CAA CCA TTC TGC CAC AAT 288 Ala Gln Gly Trp Leu His Asp Pro Val Phe Gln Pro Phe Cys His Asn 85 90 ACA GOC TCT GTC GTG OCT GOC TCA ACA CCA AAG TCT ATC AAG CAG CTG 336 Thr Gly Ser Val Val Ala Gly Ser Thr Pro Lys Ser Ile Lys Gln Leu 100 105 110 GTA GAA GAT GAG ATC GGT GAC GAC ATC GAC CAG TAT ACA CCT CTC AAC 384 Val Glu Asp Glu Ile Gly Asp Asp Ile Asp Gln Tyr Thr Pro Leu Asn 120 ACA GCA GAA GAT TTC AGA AAG ACC ATG CCT GAG GGT ATC CTG ACA GGT 432 Thr Ala Glu Asp Phe Arg Lys Thr Met Pro Glu Gly Ile Leu Thr Gly 135 140 AAC TIT CCA GGC TGG AAG GGC TTT TAC AAG CCC ACG GGT TCT GGT TGG 480 Asn Phe Pro Gly Trp Lys Gly Phe Tyr Lys Pro Thr Gly Ser Gly Trp 150 155 GTT CAT GCT CGA AAA GCT ATG AAA GCT GCT TTC GAA GAG AGC GAG AGG 528

	2	1													2	22
Val	His	Ala	Arg	Lys 165	Ala	Met	Lys	Ala	Ala 170	Phe	Glu	Glu	Ser	Glu 175	Arg	
CTT	GGT	GTC	AAA	TTC	ATC	ACT	GGC	TCT	CCC	GAA	GGA	AAG	СТG	GAG	AGT	576
	_	_							Pro					_		
	•		180				,	185			,	,	190			
CTG	ATC	П		GAC	GGC	GAT	GTT		GGT	CCC	AAG	ACG		ĠAT	CCT	624
									Gly							<b>52</b> .
200		195	0.0	, Op	σ.,	, 156	200	,	σ.,	7110	_,_	205	,a	, 12	J.,	
AAG	GAG	CAC	AGA	GCG	GAT	CGA	ACT	ATT	CTT	TCC	GCT	GGT	GCT	TCA	CCA	672
Lys	Glu	His	Arg	Ala	Asp	Arg	Thr	Ile	Leu	Ser	Ala	Gly	Ala	Ser	Ala	
	210					215					220					
GAG	TTC	TTC	CTC	GAT	TTT	GAG	AAC	CAG	ATC	CAG	CCT	ACG	GCG	TGG	ACC	720
Glu	Phe	Phe	Leu	Asp	Phe	Glu	Asn	Gln	Ile	Gln	Pro	Thr	Ala	Trp	Thr	
225					230					235					240	
CTG	GGC	CAT	ATC	CAG	ATG	ACA	CCA	gaa	gaa	ACC	aag	CTG	TAC	AAG	AAC	768
Leu	GΊγ	His	Ile	Gln	Пe	Thr	Pro	Glu	GTu	Thr	Lys	Leu	Tyr	Lys	Asn	
				245					250					255		
CTG	CCA	CCT	CTT	TTC	AAC	ATC	AAC	CAA	GGT	TTC	TTC	ATG	GAA	CCT	GAT	816
Leu	Pro	Pro	Leu	Phe	Asn	Ile	Asn	Gln	Gly	Phe	Phe	Met	Glu	Pro	Asp	
			260					265					270			
GAG	GAT	СТТ	CAT	CAA	CTC	AAG	ATG	TGC	GAT	GAA	CAT	CCG	GGC	TAC	TGC	864
Glu	Asp	Leu	His	Gln	Leu	Lys	Met	Cys	Asp	Glu	His	Pro	Gly	Tyr	Cys	
		275					280					285				
AAC	TGG	СП	GAA	AAG	CCT	GGT	TCT	AAG	TAC	CCC	CAG	TCC	ATC	CCC	TTC	912
Asn	Trp	Val	Glu	Lys	Pro	Gly	Ser	Lys	Tyr	Pro	Gln	Ser	Пe	Pro	Phe	
	290					295					300					
CCA	AAG	CAT	CAA	GTG	CCA	ACC	GAG	GCT	GAA	CGA	CCC	ATG	aag	CAG	TTT	960
Ala	Lys	His	Gln	۷a٦	Pro	Thr	Glu	Ala	Glu	Arg	Arg	Met	Lys	Gln	Phe	
305					310					315					320	
CTG	AAA	GAT	ATC	ATG	CCT	CAG	CTT	GCA	GAT	CGG	CCG	CTT	GTT	CAT	CCT	1008
Leu	Lys	Asp	Пe	Met	Pro	Gln	Leu	Ala	Asp	Arg	Pro	Leu	Val	His	Ala	
				325					330					335		
CGA	ATC	TGC	TGG	TGC	GCT	GAT	ACA	CAG	GAT	AGA	ATG	TTC	CTG	ATC	ACC	1056.
Arg	Пe	Cys	Trp	Cys	Ala	Asp	Thr	Gln	Asp	Arg	Met	Phe	Leu	Пe	Thr	
			340					345					350			
TAT	CAT	CCT	CGA	CAT	CCC	TCA	CTT	GTC	ATT	CCT	TCA	GGT	GAT	TGC	CCC	1104
Tyr	His	Pro	Arg	His	Pro	Ser	Leu	Val	Ile	Αla	Ser	Gly	Asp	Cys	IJУ	
		355					360					365				
acg	GGT	TAC	AAG	CAT	ATC	ACA	TCA	ATT	GGA	AAG	TTC	ATC	TCT	GAC	TGT	1152
Thr	GΊγ	Tyr	Lys	His	Пe	Thr	Ser	Ile	Gly	Lys	Phe	Пe	Ser	Asp	Cys	
	370					375					380					
ATG	GAG	GGT	ACG	CTT	GAG	GAA	AGG	ПТ	GCC	AAG	TTC	TGG	AGA	TGG	CGA	1200
Met	Glu	Gly	Thr	Leu	Glu	Glu	Arg	Phe	Ala	Lys	Tyr	Trp	Arg	Trp	Arg	
385					390					395					400	
CCA	GAG	AAG	ПТ	ACC	GAG	TTC	TGG	GGT	AAA	GAT	CCT	CTG	GAT	CGG	Ш	1248
Pro	Glu	Lys	Phe	Thr	Glu	Phe	Trp	Gly	Lys	Asp	Pro	Leu	Asp	Arg	Phe	
				405					410					415		
GGA	GCT	GAC	GAT	AAG	ATC	ATG	GAT	TTG	CCC	AAG	AGT	GAT	GTA	GAG	GGA	1296
Gly	Ala	Asp	Asp	Lys	Ile	Met	Asp	Leu	Pro	Lys	Ser	Asp	۷a٦	Glu	GΊγ	
			420					425					430			

24

1320

23

435

TGG ACA AAT ATC AAG AAT GAT ATC Trp Thr Asn Ile Lys Asn Asp Ile

配列番号:2

配列の長き:109 配列の型:アミノ酸

トポロジー:直鎖状

配列の種類:蛋白質

\* フラグメント型:中間部フラグメント

起源

生物名:フサリウム・オキシスポルム

株名: IFO-9972

配列

Glu His Arg Ala Asp Arg Thr Ile Leu Ser Ala Gly Ala Ser Ala Glu

Phe Phe Leu Asp Phe Glu Asn Gln Ile Arg Pro Thr Ala Trp Thr Leu

25

Gly His Ile Gln Met Thr Pro Glu Glu Thr Lys Leu Tyr Lys Asn Leu

40

45

Pro Pro Leu Phe Asn Ile Asn Gln Gly Phe Phe Met Glu Pro Asp Glu 55

Asp Leu His Gln Leu Lys Met Xaa Asp Glu His Pro Gly Tyr Xaa Asn 75

Trp Val Glu Lys Pro Gly Ser Lys Tyr Pro Gln Ser Ile Pro Phe Ala

Lys His Gln Val Pro Thr Glu Ala Glu Arg Arg Met Lys

105

配列番号:3 ※フラグメント型:中間部フラグメント

配列の長さ:56

配列の型:アミノ酸

トポロジー:直鎖状

配列の種類:蛋白質

起源

生物名:フサリウム・オキシスポルム

株名: IFO-9972

Asp Xaa Gly Thr Gly Tyr Lys His Ile Thr Ser Ile Gly Lys Phe Ile

**※** 

5

10

Ser Asp Xaa Met Glu Gly Thr Leu Glu Glu Arg Phe Ala Lys Phe Trp

25

Arg Trp Arg Pro Glu Lys Phe Thr Glu Phe Trp Gly Lys Asp Pro Leu

40

Asp Arg Phe Gly Ala Asp Asp Lys

50

55

配列番号: 4

配列の長さ:58

配列の型:アミノ酸 トポロジー:直鎖状

★フラグメント型:中間部フラグメント

起源

40 生物名: フサリウム・オキシスポルム

株名: IFO-9972

配列の種類:蛋白質

配列

Leu Ala Gly Arg Leu Ser Thr Ala Asp Ser Lys Gly Asp Asp Glu Asp

5

10

Ser Ile Trp Lys Ala Leu Ser Tyr Ala Ala Ala Gln Gly Trp Leu His

20

25

30

Asp Pro Val Phe Gln Pro Phe Xaa His Asn Thr Gly Ser Val Val Ala

40

45

Gly Ser Thr Pro Lys Ser Ile Lys Leu Val

26

50 55

配列番号:5 \*\* \*\* オフラグメント型:中間部フラグメント

配列の長さ:49 起

配列の型:アミノ酸 生物名:フサリウム・オキシスポルム

トポロジー: 直鎖状 株名: IFO-9972

配列の種類:蛋白質 \*

配列

Asp Asp Ile Asp Gln Tyr Thr Pro Leu Asn Thr Ala Glu Asp Phe Arg

1 5 10 15

Lys Thr Met Pro Glu Gly Ile Leu Thr Gly Asn Phe Pro Gly Trp Lys

20 25 3

Gly Phe TYr Lys Pro Thr Gly Ser Gly Trp Val His Ala Arg Lys Ala

5 40 4

Met

配列番号:6 ※フラグメント型:中間部フラグメント

配列の長さ:43 起

配列の型:アミノ酸 生物名:フサリウム・オキシスポルム

トポロジー: 直鎖状 株名: IFO-9972

配列の種類:蛋白質 ※

配列

Gln Ser Gln Ile Leu Ile Val Gly Gly Gly Thr Trp Gly Xaa Ser Thr

1 5 10 15

Ala Leu His Leu Ala Arg Arg Gly Tyr Thr Asn Val Thr Val Leu Asp

20 25 30

Val Asn Arg Ile Pro Xaa Pro Ile Xaa Ala Gly

35 40

配列番号:7 ★フラグメント型:中間部フラグメント

配列の長さ:31 起源

配列の型:アミノ酸 生物名:フサリウム・オキシスポルム

トポロジー: 直鎖状 30 株名: IFO-9972

配列の種類:蛋白質 オ

配列

Asp Ile Met Pro Gln Leu Ala Asp Arg Pro Leu Val His Ala Arg Ile

1 5 10 15

Xaa Trp Xaa Ala Asp Thr Gln Asp Arg Met Phe Leu Ile Thr Tyr

20 25 30

配列番号:8 ☆トポロジー:直鎖状

配列の長さ:20 配列の種類:他の核酸(合成DNA)

鎖の数: 一本鎖 ☆

配列

TTY ATG GAR CCN GAY GAR GA 20

Phe Met Glu Pro Asp Glu Asp

1 5

配列番号:9 ◆トポロジー:直鎖状

配列の長さ:48 配列の種類:他の核酸(合成DNA)

鎖の数:一本鎖 ◆

配列

GTAAACAAAC TTGCTGGCCG ACTGTCGACT GCCGATAGCA AAGGTGAT 48

配列番号:10 鎖の数:一本鎖

配列の長さ:24 50 トポロジー:直鎖状

配列の種類:他の核酸(合成DNA)

配列

27

ACAATCACTA CCATCGCCTC AACT

24

28

配列番号:11

配列の長さ:23

\*トポロジー:直鎖状

配列の種類:他の核酸(合成DNA)

鎖の数:一本鎖

\*

配列

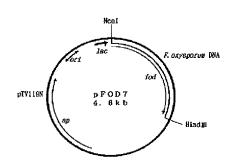
GAAGAGAAGC TTAGAATAGA AAC

【図面の簡単な説明】

図である。図中の「fod」はフルクトシルアミンオキ シダーゼ遺伝子を、「ap」はアンピシリン耐性遺伝子 を、「lac」はβ-ガラクトシダーゼ遺伝子由来プロ※

※ モーター配列を、「ori」はプラスミド複製起点を示 【図1】図1はプラスミドpFOD7の構造を示す模式 10 す。また、「Ncol」、「HindIII」は制限酵 素認識部位を、「pTV119N」、「F. oxysp orum DNA」はプラスミドの各領域の由来を示

【図1】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

FΙ

C 1 2 R 1:19) (C 1 2 N 9/06

C 1 2 R 1:19)